

部 門	(1)計画・検討・設計部門		
課 題 名	志佐川床止め工における魚道改修計画について		
所 属	長崎県県北振興局建設部河川課		
発表者役職氏名	技師 高田 崇文	連絡先電話番号	0956-23-4111
河 川 名	志佐川水系志佐川 二級	工期	令和2年度 ~ 令和3年度
所 在 地	長崎県松浦市志佐町		
計画高水流量	620m ³ /s (1/50)		
事業名	改 修 ・ 維 持 ・ 環境整備 ・ 災害復旧 ・ その他		

【設計コンセプト】

◆多自然川づくりを実施した経緯

志佐川は、佐賀県伊万里市の烏帽子岳を源流とし、長崎県域に入り、松浦市志佐町を貫流し、伊万里湾に注ぐ流域面積48.1km²、流路延長18.3kmの二級河川である。

志佐川では古くから内水面漁業が行われており、協同組合解散後の現在は志佐川内水面振興協議会（以下、「協議会」とする）により漁場利用管理、アユの放流等の保護培養活動が行われている。また、アユの放流は、幼児・小学生等の自然にふれあう学習の場となっている。

しかしながら、当箇所においては、治水事業後の経年的な河床変動や床止め工の損傷により、アユの遡上降下時の移動の障害となっていることから、協議会より魚道の改修要望がなされている。

◆目標

- ・河川内に生息する生物が必要とする移動路を確保するための魚道整備。
- ・魚道整備と合わせた瀬や淵、水制や根固工による洪水時の避難場所の確保。

◆配慮した点、工夫した点、セールスポイント等

- ・魚道型式の検討においては、近年の施工実績から台形魚道を選定し、他河川における現地状況調査を行い検討の参考とした。
- ・魚道位置については、用水の余水吐きを魚道の呼び水として活用できるよう魚道配置を行った。
- ・床止め工水叩き下流部は淵が形成され、魚類の生息場所でもあるため、極力埋めないように配慮した。
- ・床止め工は固定堰としても利用されていることから、改修計画の策定にあたっては、協議会のほか水利組合にも説明を行い整備内容を決定した。

◆その他

- ・今年度の工事着手を予定しており、工事時期についても協議会と調整を行っていくこととしている。工事後の効果については、協議会を通じて地元の意見の把握に努めたい。
- ・当箇所の下流河道については、土砂の堆積ならびに堆積土への植生の繁茂に伴い流下阻害が懸念されていること、魚道への土砂転石の流入・堆積による魚道の機能不全が生じていることから、土砂の浚渫・河道内竹木の伐採についても行っていく。
- ・県内二級河川の魚道整備状況については、平成20年3月に調査報告書がまとめられており、引き続き魚道の機能確保に努めていきたい。

